日高病院眼科後期研修（レジデント）プログラム

１．はじめに

日高病院眼科は日本眼科学会専門医制度研修施設として認定されています。卒後2年間の臨床研修終了後、当院での4年間の専門研修を行うことで眼科専門医の受験資格を取得することができます。本プログラムは、専門医になるための眼科診療の基礎および高度医療を学ぶことにあります。また、チーム医療の実践、眼科専門医として地域の医療機関と連携を持ちながら質の高い医療を提供する方法について学ぶことにあります。

２．　プログラム指導者

宇都木　憲子　眼科医長　　日本眼科学会専門医

３．研修方法

1）専門医研修期間においては指導医の監督のもとに教育を受けることを原則とします。指導医を責任者とするチームの一員として、外来診療に従事し、指導医とともに主治医・担当医となって入院患者の診療にあたります。
2）指導医1名につき研修医1名で研修を行います。
3）下記に研修目標、各年次のプログラム概要を示しますが、プログラムの進捗は理解・到達を確認しながら弾力的に行います。
4）眼科全般で有効な研修が経験できるよう、関連施設での研修も取り入れます。
5）専門医研修と並行して、学会発表・論文発表の準備、発表の指導、助言を行います。

４．到達目標

研修の到達目標は、眼科全般の検査、診断および治療・手術手技の習得です。外来診療については、単独で、治療の必要性・手術適応が的確に判断できることを目標にします。手術に関しては、難易度の低い手術は執刀医として自立し、難易度の高い手術は、指導医のもとで執刀医を務める、または、執刀医の助手が務められることを目標にします。また、学会活動に参加し、積極的に症例報告を行い、専門医取得に必要な研究・論文発表を行うことを目標にします。

５. 研修目標－診療の基礎的事項

① 記録の記載

1） 診療記録、手術記録、その他の記録・書類の記載

2） 指示、オーダーの出し方と記載

② コミュニケーション・スキル

1） 患者・家族への説明方法、接遇

2） チーム医療の一員としての役割とチーム医療の進め方

④ 診療システムの理解

1） 外来診療、入院診療の流れ

2） 手術計画の作成、手術室の管理

③ 他医療機関等との関係

1） 救急患者・紹介患者の受け入れ

2） 診療情報の提供

3） 地域医療連携の方法

６. 研修目標－検査・診断

(1) 基本的な眼科診断技術および検査（自ら実施できるか、検査の適応とその結果の解釈ができる）

1） 視力検査（矯正）
2） 屈折検査
3） 調節検査
4） 視野検査
5） 色覚検査
6） 眼底検査、眼底撮影、螢光眼底造影
7） 細隙灯顕微鏡検査
8） 眼位、眼球運動、両眼視機能検査
9） 緑内障検査、眼圧測定
10） 涙液分泌能検査、導涙検査
11） 眼表面からの検体採取
12） 電気生理学的検査
13） 神経眼科学的検査
14） 眼球突出度、挙瞼力測定

(3) 基本的手技

1） 眼帯装用
2） 点眼、眼軟膏の点入
3） 結膜下注射
4） 眼球マッサージ
5） 前房穿刺
6） 角結膜異物除去
7） 球後麻酔、瞬目麻酔、テノン嚢下麻酔
8） 霰粒腫、麦粒腫の切開
9） 眼瞼、結膜、強膜の縫合
10） コンタクトレンズの装用と管理
11） レーザー治療

(4) 基本的治療法

1) 療養指導
2) 薬物治療
3) 輸液

(5) 診療記録

1) 診療録
2) 処方箋(眼鏡、コンタクトレンズを含む)、指示箋
3) 診断書
4) 紹介状、返信

B. 経験すべき症状、病態、疾患

(1) 頻度の高い症状

視力障害
視野狭窄
結膜の充血

(2) 緊急を要する症状、病態

急性感染症
外傷、熱傷

(3) 経験が求められる疾患、病態

屈折異常
角結膜炎
白内障
緑内障
糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化

7. 研修目標ー手　術

手術については、執刀者、助手を合わせて総数100例以上。そのうち、外眼手術、内眼手術、およびレーザー手術が、それぞれ執刀者として20例以上

8. 研修目標ー学術研究

1) 症例検討会、眼病理検討会、抄読会、各種学会等への出席。
2) 眼科に関する論文を、単独または筆頭著者として1篇以上、および学会(集談会等を含む)報告を演者として2報以上発表。

9. 関連施設

1) 群馬大学医学部附属病院

１０．　各年次の研修概要

（後期研修4年間：モデルプログラム）

1 年目

- □ 指導医とともに入院患者を受け持ち、術前評価、術前計画、手術介助、周術期の管理について学ぶ。
- □ 週1～2 回外来で予診と退院患者のフォローを行い外来治療についても学ぶ。
- □ 各種検査手技の指導を受け、自ら経験する。
- □ 各種手術の助手として参加した後、簡単な手術を指導医のもとで術者として行う。
- □ カンファレンスで症例報告を行う。
- □ 学会等に積極的に参加する。学会発表、論文発表の準備を行う。

2 年目

- □ 基本的には1年目と同じ研修内容となるが、より自立して行うことを目指す。
- □ 引き続き指導医とともに入院患者を受け持ち、更に、外来診療の経験を積む。
- □ 1年目で経験した治療、検査の数を重ねて、習熟する。
- □ 手術を術者として経験する。
- □ 学会等に積極的に参加する。学会発表を演者として行う。

3 年目

- □ 入院患者を受け持ち、必要に応じて指導を受ける。
- □ 初診患者の診療に参加する。
- □ 処置、検査などは独力で行い、必要に応じて指導を受ける。
- □ 難易度の高い術者を指導医のもとで経験する。
- □ 難易度の低い手術は術者として自立して完遂する。
- □ 学会等に積極的に参加する。学会発表、論文発表を行う。

4 年目

- □ 眼科専門医として自立した診療を行う
- □ 自施設での診断や治療成績を検討した臨床研究を学会・論文に発表する。